



中教審答申と主体的学びが どう授業改善につながるか

帝京大学高等教育開発センター
土持ゲーリー法一
(ファカルティ・ディベロッパー)

第9回 国士館大学FDシンポジウム

中教審答申

- 1)「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」(中教審答申)が2012年8月28日に出された。冒頭、「将来の予測が困難な時代が到来しつつある」と分析し、**不透明な時代**を切り拓くために、大学教育の質的転換を促している。**「想定外」**という言葉も聞かれるようになった。
- 2)「審議まとめ」から、「学習」が「**学修**」へと変更され、答申では一貫して「学修」という表現に変わった。

第9回 国士館大学FDシンポジウム

新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて ～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)の要約	
1. 大学教育の質的転換の必要性	大学教育に求められる力の転換
2. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
3. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
4. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
5. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
6. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
7. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
8. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
9. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
10. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
11. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
12. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
13. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
14. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
15. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
16. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
17. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
18. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
19. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
20. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
21. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
22. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
23. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
24. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
25. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
26. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
27. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
28. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
29. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
30. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
31. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
32. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
33. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
34. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
35. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
36. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
37. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
38. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
39. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
40. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
41. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
42. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
43. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
44. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
45. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
46. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
47. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
48. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
49. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
50. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
51. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
52. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
53. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
54. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
55. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
56. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
57. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
58. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
59. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
60. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
61. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
62. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
63. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
64. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
65. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
66. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
67. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
68. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
69. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
70. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
71. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
72. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
73. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
74. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
75. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
76. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
77. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
78. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
79. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
80. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
81. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
82. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
83. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
84. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
85. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
86. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
87. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
88. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
89. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
90. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
91. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
92. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
93. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
94. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
95. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
96. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
97. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
98. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
99. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価
100. 教育の成果の向上と評価	教育の成果の向上と評価

主体的学び研究所
「自ら学び、活用する」人材育成のために。

高大接続
高校生に大学の学びを伝えるメディアの研究

出版
各様の学びに関する
最新文庫の出版

調査研究
海外を基盤に大学間の
連携研究の推進研究
eポートフォリオ活用
IT活用方法の調査研究

セミナー・勉強会の実施
大学関係者からの依頼に応じた
勉強会の実施

AL Active Learning Lab

「学習」から「学修」へ

1) 答申の中で注目すべき提言は、これまでの「学習」という考えから「学修」という考えに**パラダイム転換**したことである。とくに、**学修時間の増加・確保**に焦点が当てられている。

2) なぜ、「**学修時間**」が問題なのか。それは、将来の予測が困難な時代に必要とされる、**生涯学び続ける力、主体的に考える力**を持った人材を育成するには、旧来型の受動的な教育から、学生が主体的に問題を発見し、解決していく**能動的な学習(アクティブ・ラーニング)**への転換が不可欠であるからである。

第9回 国士館大学FDシンポジウム

「浅い学び」から「深い学び」へ

1) 受動的な学び(浅い学びの「**知識**」)から、**主体的な学び**(深い学びの「**知恵**」)へつなげるために、「学修」という言葉を用いている。

2) これは、大学における単位制にもとづく考えである。たとえば「**大学設置基準上**、大学での学びは『**学修**』としている。これは、大学での学びの本質は、講義、演習、実験、実技等の授業時間とともに、授業のための**事前の準備、事後の展開**などの主体的な学びに要する時間を内在した『**単位制**』により形成されている」と述べ、**能動的学修が不可欠**であると述べている。

第9回 国士館大学FDシンポジウム

能動的学習の動向

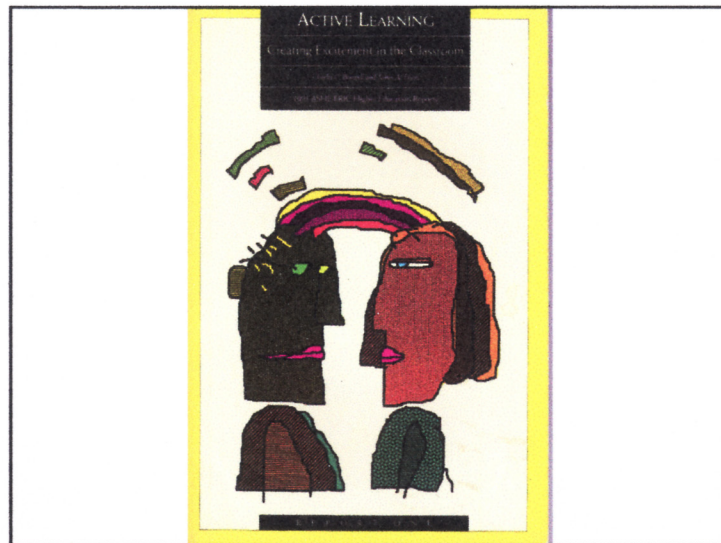
1) 「主体的学び」あるいは「能動的学び」は、英語の“**Active Learning**”のことである。

2) “Active Learning”がアメリカで注目されるようになったのは**1991年**のころであった。その中心的な一人が現在、南フロリダ大学で高等教育に関する教べんを取っている**ジェームス・アイソン教授**(次頁の最近の写真を参照)で、彼の共著が出发点となった。

第9回 国士館大学FDシンポジウム



第9回 国士館大学FDシンポジウム



「能動的学習経験」と「省察的学習経験」

1) Bonwell と Eison は、読み書きや議論、発表や実施といった「**能動的学習経験**」と、フィードバックされた課題を精査することなどを通して、自身の**学習過程を振り返る「省察的学習経験」**の双方を含む**学習活動**を能動的学習と定義づけた。すなわち、学習活動には、能動的学習経験と省察的学習経験がある。

2) フィンクは、著書『**学習経験をつくる大学授業法**』（玉川大学出版部、2011年）にもとづき、2013年6月1日の大学教育学会第35回全国大会（東北大学）での基調講演「意義ある学習を目指す授業設計」で次頁の図表のように、「省察」としての「**ラーニング・ポートフォリオ**」や「**ジャーナル（学習日誌）**」による「**振り返り**」が重要であると述べている。すなわち、ラーニング・ポートフォリオやジャーナルによる「**省察**」が重要な**能動的学習を促す**としている

第9回 国士館大学FDシンポジウム



学修ポートフォリオ

1) 省察的学習経験をもたらす比較的新しいツールとして、中教審答申でも「**学修ポートフォリオ**」をあげている。

2) 大学での成績評価は、単位認定に焦点が当てられる総括的な面のみが注目され、学習過程を振り返る**形成的な面が看過されがちである**。

3) しかし、学修ポートフォリオについて、学生が学修過程ならびに各種の学修成果を長期にわたって収集したものと定義づけている。

4) アメリカの大学では、これを「**卒業ポートフォリオ**」として普及している。

第9回 国士館大学FDシンポジウム

「振り返り」を促す ラーニング・ポートフォリオの事例

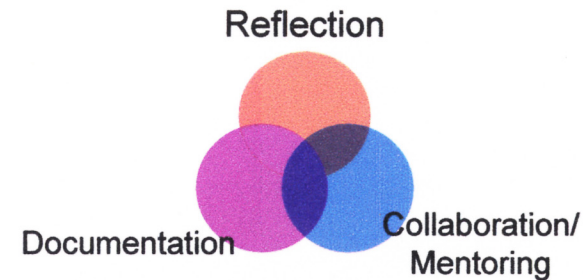
- 1) ジョン・ズビザレタによれば、ラーニング・ポートフォリオは、次頁の3つの要素から構成される。
- 2) すなわち、省察(リフレクション)、共同作業(メンターリング)、証拠資料(ドキュメンテーション)である。これらの3つの要素が「深い学び」につながる。

第9回 国士館大学FDシンポジウム

ジョン・ズビザレタ教授基調講演「ラーニング・ポートフォリオを活用した学生の学習向上」(弘前大学)より

The Learning Portfolio

Reflection + Documentation + Mentoring = Learning!



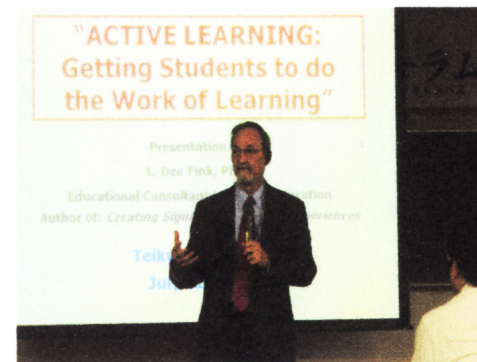
第9回 国士館大学FDシンポジウム

アクティブ・ラーニングの効果

- 1) フィンク博士は、アクティブ・ラーニングに関連して、帝京大学第1回FDフォーラムで「能動的学習～学生を学習させるには」と題して講演を行った。詳細は、～URL
<http://apps.v.main.teikyo-u.ac.jp/~ctl/>および『教育学術新聞』(2012年8月8日)を参照。
- 2) 彼は、アクティブ・ラーニングのことを“Student Engagement”と定義づけた。講演では、チーム・ベースド・ラーニング(TBL)など興味深い報告があった。

第9回 国士館大学FDシンポジウム

出典:「帝京大学第1回FDフォーラム～能動的学習～学生を学習させるには～」より



第9回 国士館大学FDシンポジウム

アクティブ・ラーニングの**効果**に関する 実証的研究

1) アクティブ・ラーニングが、いかに学生の“Attendance”、“Student Engagement” および“Student Learning” を高めることに効果的であるかに関して、**ノーベル物理学受賞者カール・ワイマン博士**(アメリカ)の物理学の授業に関する実証的研究に関する報告があった。

2) これは、ワイマン博士が2011年5月『サイエンス』誌で発表した論文(“Improved Learning in a Large-Enrollment Physics Class”)からの紹介である。

第9回 国士舘大学FDシンポジウム

研究成果

1) 物理学を学ぶ同レベル学生**250人**ずつの**2つの大きなクラス**において、一人の教員が教週間、同じ講義を行った後、一方のクラスだけ、最後の1週間(3日間)をワイマン博士の研究指導を受けたポスドクが**アクティブ・ラーニング**を取り入れ、グループ学習を通して問題を解決したり、素早いフィードバックを行った。

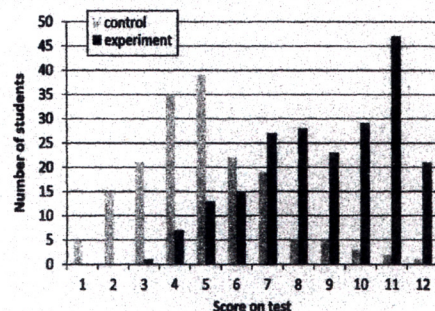
2) その結果、**アクティブ・ラーニング**を取り入れたクラスでは、学生のAttendanceが**57%→75%**、Student Engagementも**45%→85%**に伸びた。

3) 最も顕著なことは、**Student Learning** が伸びたことである。すなわち、次頁のグラフが示すように、講義だけの学生と実験的に**アクティブ・ラーニング**を取り入れた学生との間に**大きな変化**が見られた。これは、**アクティブ・ラーニング**が学生の学びを改善することを裏づける**画期的な研究**であるとフィンク博士は結論づけた。

4) フィンク博士によれば、**学習者中心の視点を教授法**に取り入れ、学生がどれだけ学んだかを中心にすれば、授業へのAttendance やEngagement も伸びると結んだ。

出典:「帝京大学第1回FDフォーラム～能動的学習～学生を学習させるには～」より

Test scores by students in 2 sections, at end of 1 week:



第9回 国士舘大学FDシンポジウム

「**準備学習**」の重要性

1) フィンク博士の講演で重要なことは、能動的学習を導入するための「**準備学習**」である。

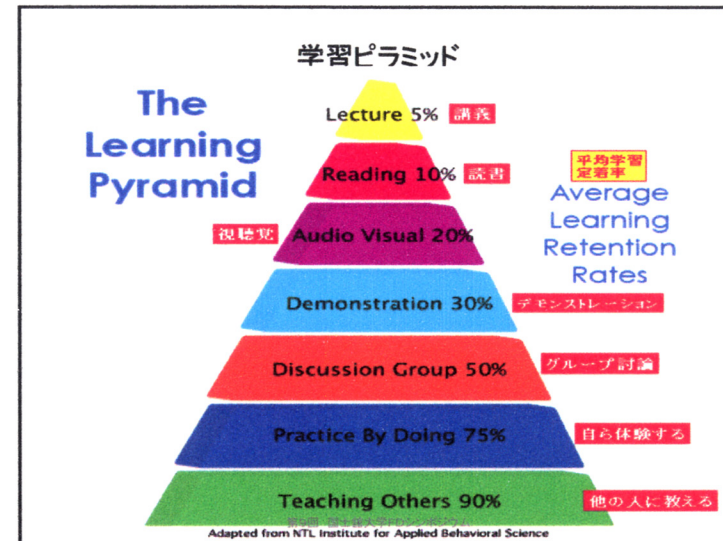
2) アメリカの大学の授業科目は3単位なので、月・水・金の週3回行われ、月と水に徹底した講義および**自学自習**を踏まえて、最後の金曜日にグループ学習などの能動的学習が行われ、その結果、学習成果を高めているという事実を看過してはいけない。

第9回 国士舘大学FDシンポジウム

学習ピラミッド

- 1) 平均学習定着率を表すのに「**学習ピラミッド**」が良く使われる。次頁の図表がそうである。この図表は、帝京大学**SCOT**が作成したものである。
- 2) 「**講義**」における学びの定着が最も低い。図表が**下**に行くにしたがって、定着率が高まり、能動的学習につながっている。
- 3) 「学習ピラミッド」には誤解もある。たとえば、能動的学習を促すために、「**他の人に教える**」だけで良いのか。「他の人に教える」ためには、自らも深く学ぶ必要があるので、その意味で「**講義**」は重要である。

第9回 国士館大学FDシンポジウム

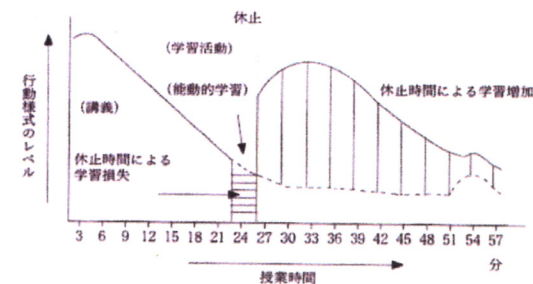


効果的な授業の工夫

- 1) アイソン教授によれば、「講義」も**工夫の仕方**によって能動的学習につながる。講義に試験やミニクイズを**併用**することで、学生は主体的に考え、能動的に活動するようになる。
- 2) 次頁の図表のように、学生の集中力は約20分程度しかないことがわかる。その後には能動的活動（たとえば、隣の学生同士で話し合うとか、クリッカーを用いるなど）を取り入れると効果的な授業につながる。
- 3) 「学習ピラミッド」のすべての**要素を駆使**することで効果的な授業改革につながる。

第9回 国士館大学FDシンポジウム

なぜ、アクティブ・ラーニングが必要か



出典：Bligh, D.A. (1971), What's the use of lectures? Exeter, UK: D.A. and B. Bligh.

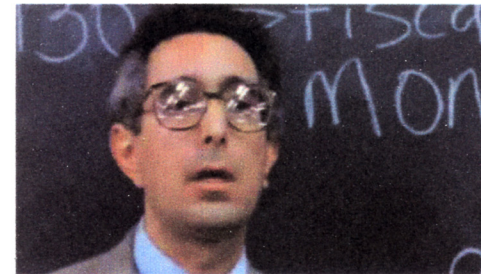
図3-1 「休止」を挟む講義時間の学習パターンの推測

第9回 国士館大学FDシンポジウム

“Student Engagement” のない授業風景

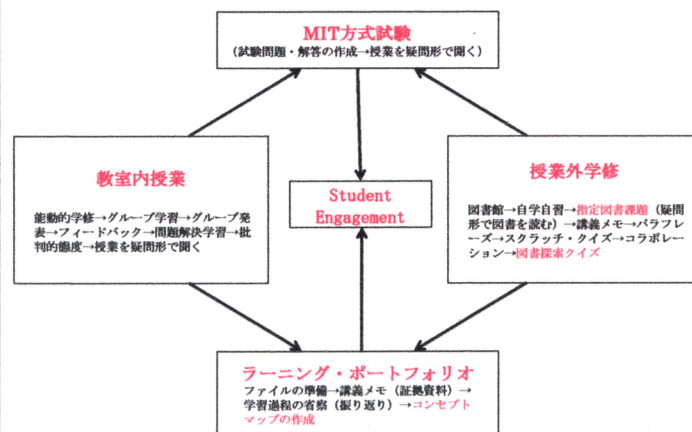
- 1) アクティブ・ラーニングを促進するには、**Student Engagement** (主体的学修) が不可欠である。
- 2) 次頁は、Student Engagement のない「**退屈**」な「**経済学**」の授業の様子である。
www.youtube.com/watch?v=dxPVyieptwA
- 3) この映像からも、授業には **Student Engagement** が不可欠であることがわかる。

第9回 国士舘大学FDシンポジウム



第9回 国士舘大学FDシンポジウム

「Student Engagement(主体的学修)」を促す授業実践



第9回 国士舘大学FDシンポジウム

Student Engagementを促すMIT方式試験

- 1) 学生は、試験問題を作成するために授業に **Engagement** し、批判的な姿勢で授業を受けなければならない。学生から提出された問題の傾向を見るだけでも、学生がどのように **主体的に学んだ**かがわかる。(詳細は、拙著『ラーニング・ポートフォリオ～学習改善の秘訣』(東信堂、2009年、151～2頁を参照)。
- 2) 学生は、試験問題を考えることで、授業に **Engagement** でき、理解を深めることができる。教員は、学生からの試験問題を参考に最終問題を作成するので、**Student Engagement** を **公平に評価** できる。

第9回 国士舘大学FDシンポジウム



第9回 国士館大学FDシンポジウム

ラーニング・ポートフォリオ 「省察」による実践

- 1) 学習過程の振り返りが重要である。すなわち、メタ認知による省察が学びを深める(詳細については、拙著『ラーニング・ポートフォリオ～学習改善の秘訣～』(東信堂、2009年を参照)。
- 2) ラーニング・ポートフォリオを書かせるに当たって、以下のことを学生に自問自答させると良い。
 - (1) 何を学んだか、なぜ学んだか。
 - (2) いつ学んだか、どのような状況あるいはどのような条件下で学んだか。
 - (3) どのように学んだか、逆に、学ばなかったか、自分自身がどのような学習者であることがわかったか。
 - (4) 何を学び、学習計画や将来計画にどのように繋がったか。
 - (5) 学習したことで知的・倫理的成長にどのような違いが見られたか。
 - (6) 学習したことがどのように役立ったか。

第9回 国士館大学FDシンポジウム

主体的学びを促す コンセプト・マップ

- 1) 最初からポートフォリオをまとめさせるのは難しい。学生には、授業内容(15回)を振り返り、各単元がつけられるように指導をしている。点(単元)を線(マッピング)でつなげることは重要である。
- 2) スティーブ・ジョブズは、「ドットを結ぶ」ことでアップルの成功に繋がった。ドット(単元)をつなげる作業は、学生の創造力と集中力を高める。
- 3) 次頁は、昨年度の帝京大学の学生が描いたコンセプト・マップの一例である。これによって、学生はポートフォリオを書く前に頭の整理ができ、要点を絞り込むことができる。この作業だけでも平均4時間を要する。これは、主体的学びを裏づける証拠資料となる。

第9回 国士館大学FDシンポジウム





ご清聴ありがとうございました。

帝京大学高等教育開発センター
(Center for Teaching and Learning, Teikyo University)



042-678-3976

ctl@main.teikyo-u.ac.jp

第9回 国士舘大学FDシンポジウム